建設通信新聞
第二部
発行所
日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話 03-3259-8711

学びの進化支える

東畑建築事務所の教育施設

1932年（昭和7年）に創設した東畑建築事務所。80年を超える長い歴史において幅広いジャンルで数多くの建築物を生み出してきた。なかでも、いま注目すべきは教育施設であろう。創業者・東畑謙三が遺した『最大よりも、最優たらん』の理念に基づき、設計の初期段階から完成に至るまで依頼者との対話とパートナーシップを重視した「学び舎づくり」は、現代社会のドラスティックな変化や子供から大人まで多様な学びのニーズにも対応、各方面から高い評価を得ている。少子高齢化社会の進展により「全ての人に優しい建築」が求められるなか、教育施設における東畑建築事務所のスタンス、思想に焦点を当て、その成果である建築作品も紹介する。

同志社大学　良心館

武庫川女子大学　学校教育館

大垣市立北幼保園

顔の見えるパートナーシップ実践

東畑建築事務所社長　**香西　喜八郎**

東畑建築事務所は、1932年の開設以来、ことしで83年目を迎えることができました。事務所創業者である東畑謙三の「最大よりも、最優たらん」との理念に基づき、私たちは一貫して依頼者の立場に立って、品質確保を最優先に努めてまいりました。対話を重視し設計者が計画初期から完成まで一貫し担当することで、「顔の見えるパートナーシップ」を目指しております。

少子高齢化などの社会情勢の変化にともない、教育の現場は大きな転換期に差し掛かっています。「全入時代」を迎えた大学は各大学が特色ある教育環境づくりを競い合う状態にあり、アクティブラーニング等新しい学習形態を実現させる空間づくりが、求められています。また初等教育においては小中一貫や中高一貫など、これまでの枠組みを超えた取り組みが各地で動き始めています。

教育施設の設計に何より重要なのは、多様な教育プログラムへの理解とそれを空間に具現化する能力です。計画段階から教育理念やカリキュラムを十分理解し必要な機能を的確に配置するとともに、さらに高機能で、利用する方々に喜んでいただける空間を設計者として提案することも必要です。

私たちはこれまでも初等教育から高等教育まで数多くの教育施設で設計を担当するとともに、一貫教育や生涯教育、専門教育など時代の変遷とともに生まれた新たな分野にも着実に対応してきました。いずれの建物も「最大よりも、最優たらん」の精神で「顔の見えるパートナーシップ」を実践し、持てる技術やノウハウを十分に発揮できたと確信しております。

この特集号で、私たちが手がけました教育施設の取り組みの一端をご覧いただき「人を育み、社会に応える快適な学び舎づくり」の理念を、皆様に少しでもご理解いただければ幸いです。

空間を提供

社会情勢の変化や技術革新を背景に、教育空間に求められる機能、役割も大きく姿を変えつつある。創設者・東畑謙三の思想を継承し建築のプロとして新時代の教育ニーズにいかに対応していくべきか。東洋大学名誉教授で教育環境研究所理事長の長澤悟氏と、東畑建築事務所の６人の設計者が語り合った。

斬新さに加え機能性と合理性も

座談会

教育環境研究所理事長
・東洋大学名誉教授
長澤　悟氏

最大よりも最優たらん

笹村　座談会のテーマとして「教育施設に求められているもの」という課題を設定いたしました。私たちの事務所は1932年の開設以来、「最大よりも、最優たらん」という理念に基づき、一貫して設計に取り組んでまいりました。創業者である東畑謙三が武田五一のもとで初めて手がけた建物が東方文化学院京都研究所（現・京都大学人文科学研究所）です。スパニッシュ風の佇まいは当時大変斬新なもので、機能性に合理性も考慮された設計が特徴です。完成から80年以上が経過した今も現役で京大の方々から愛されていることを実感します。快適な学びの空間を提供するという点で、我々のDNA的な建築であると認識しております。

昨今は教育環境もグローバリゼーションとか少子高齢化など、社会情勢の変化を背景に従来の枠組みを超えた取り組みが各地で盛んになっています。検討の初期段階から理念やカリキュラムを考慮しクライアントの方々や実際にお使いになられる教員の皆さん、生徒や学生たちと共に考えていく姿勢が必要と私たちは考えています。

長澤　本題に入る前に、東畑建築事務所による学校建築との出会いについて一言お話させて下さい。20年余り前になりますが、1992年度の公立学校優良施設表彰で同じ三重県の鈴鹿市立郡山小学校と四日市市立三浜小学校が文部科学大臣奨励賞を争うということがありました。当時、この地方には目立ったものがあまりなく、とても印象的だったものですから、設計者はと確かめたら両方とも東畑建築事務所だったのです。伸びやかなデザインで、計画面はもちろん、素材の生かし方も優れていて大変感銘を覚えた記憶があります。

80年以上経過した今も現役

京都大学人文科学研究所

笹村　ありがとうございます。それではまず「やすらぎのある良質な環境づくり」という切り口で最近のプロジェクトをご覧頂きながら、ご意見をお伺いできればと思います。

皆に優しい学習空間

瓦田　この大口南小学校という学校は、愛知県の北部にあります。「やすらぎと良質な環境づくり」というコンセプトのもとRC造の建物を基本に、積極的な木質化を図ったプロジェクトです。地上2階建てで平面計画はいわゆるクラスタープランを採用しました。

もう一つの特徴がメディアセンターの設置です。ここはもともと図書館教育に熱心で、他の学校と比べてほぼ倍近い面積の図書室を確保し、情報学習の機能も備えた教室としました。このメディアセンターには階段教室もあります。階段教室も最近あちこちの学校で実現されていますが、今回は図書館と組み合わせて作ったことにより非常に利用率が良いと聞いています。

それからこの学校には会議室兼用のボランティアルームがあり地域にも開かれた学校となっています。こうした取り組みが評価され愛知県の「人にやさしい街づくり賞」や内閣府の「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」も受賞しました。

大口町立大口南小学校

丘と建物を一体化

福本　次に紹介いたしますのが、福岡雙葉小学校という福岡市内にあるカトリック系の私学です。昨年設計が完了し現在工事中です。周辺は住宅地で緑に囲まれた丘の上に位置しています。高低差のある地形が複雑な場所で、環境にも学校にも共に優しくつくることができるかに主眼を置いて計画いたしました。私学としてのアピール性を確保しながら周辺に圧迫感を与えないよう配慮した結果、建物の屋上と既存のグラウンドレベルを同じにすることで建物の屋根が自然のグラウンドに少しずつ変化し、丘と建物が一体化するという構成になりました。

福岡雙葉小学校

外観デザインについてはミッションスクールのシンボルである「祈りの部屋」を前面に押し出し、カトリック学校の精神性を表現しました。インテリアは自然な優しさを求め、木や土、しっくいなどできるだけ天然の素材を用い、やわらかい雰囲気に持っていきたいなと思っております。

長澤　まず大口南小学校についてですが、今の学校の課題全般について非常によく捉えて計画された学校という印象を受けました。町の目指す教育方針を建築側でしっかり受けとめていると思います。学校全体が子供たちの日常の動きの中で自分の場所として意識されるプランニングになっています。中でも学校全体のコアとなる図書館まわりが豊かな空間構成となっており「人に優しい学びの空間」としてぴったりフィットしているように思いました。

福岡雙葉小学校もとてもユニークで面白いと思います。東京都心部には体育館などの上部を人工地盤として屋外運動場を設けているケースはありますし、傾斜地を活かした例は他にも見られますが、ここでは自然地盤と人工地盤を一体化させてグラウンドとしていてとても面白いと感じました。自然通風が工夫のしどころだったと思います。一つお聞きしたいのは、開口面が北向きになっていることです。

施設への思い積み上げ

福本　敷地形状や既存棟を含めた周辺環境条件より、旧来の「教室は南面採光ありき」にとらわれず北面開口による安定した光熱環境になるよう、開口形状を含め細心の注意を払いました。

長澤　そうですか。学校現場では教室は南向きという考えが強いので、提案時に苦労されたのではないかと思いました。実際、南側が開けた北側教室はむしろ環境が安定していて評価が高いですね。

地域のつながりを

高木　ではここからは「つながりを大切にする施設づくり」について3件、紹介いたします。私からは愛知県新城市の作手小学校・山村交流施設の説明をさせていただきます。ちょうど設計が終わり、2017年4月竣工予定です。

小学校と音楽ホール・図書室を持つ地域の交流拠点施設の複合施設で共に育ち、共に学ぶという「共育」をテーマのひとつに掲げています。中庭を中心に学校が地域の施設を使い、地域が学校の施設を使い共有できる諸室が配置されている点が特徴です。設計にあたってはワークショップを主催し、地域の声や施設に対する思いを積み上げる事を意識して取り組んできました。また既存の4校を統廃合するということで、廃校になる学校の利活用も含めて議論を重ねました。私たちも単なる学校づくりではなくまちづくり、さらには地域活動の再生をも担わないといけないという思いでプロジェクトに臨みました。質の高い教育活動が子供の数を増やすことにつながり、さらに地域を担う人材の育成にもつながればと願っています。

新城市立作手小学校・山村交流施設

交流誘発する仕掛け

炭田　私からは東京都北区の区立なでしこ小学校を紹介します。都心の住宅密集地域の中にある学校で「地域の拠点」として周辺の公共施設との合築に積極的に取り組んでいる事が特徴です。校舎の1階に地域住民のコミュニティ施設である「ふれあい館」や「地域振興室」を配置し、コミュニティの活性化や災害時の防災機能向上を図っています。これは発注者である北区の「北区公共施設再配置方針」における「学校等の施設への集約化・複合化」に沿ったもので、北区では今後もこうした公共施設の再編を進めていくとの事です。

今は実施設計中ですが「なでしこモール」という正門から校舎の下を校庭まで通り抜けるピロティー形式の外部通路を設け、さまざまな交流を誘発する計画としています。出会いの空間になるよう「なでしこモール」の随所に小窓やベンチなどを設けながら、温かみのある仕掛けやしつらえを作り込んでいこうと考えています。

快適な学びの

執行役員
瓦田 伸幸氏

設計部長
笹村 欽也氏

設計部長
高木 耕一氏

設計部主管
福本 朋広氏

設計部主管
炭田 晶弘氏

設計部主管
松田 一氏

成長段階に応じた場を用意

景観にとけ込む

松田　私からは滋賀県草津市の老上第二小学校を紹介します。現状の小学校が駅前の再開発と宅地開発の進展によって十数年前からすると倍ほどに児童数が増えたことによる分離新設校です。全体計画としてはこの地域の集落景観をイメージした2階建ての分散配置とし、防災広場としても機能する「ふれあい広場」を中心に、クラスター形式の校舎棟と体育館、学童・市民センター棟が取り囲むような配置になっています。校舎は一部木造化も図っており、エントランス近くにある「メディアセンター」は常に開放され、子供たちがいつでも自由に利用できるようにしています。隣接して設けられた音楽室（ホール）は地域住民を始め多目的に利用されることを想定したもので「ふれあい広場」と共に学校のシンボルとなります。

なでしこ小学校等複合施設（ブロックプラン）

長澤　作手小学校についてですが、ワークショップを重ねるという作業はなかなかできることではない、大変なことだと思います。学校の統廃合は、今大きな問題となっています。このときに学校に代わる地域の核をどうすべきか、廃校の利用も含め各地域をどうつなぎ、ネットワークを形成していくかを議論していく必要があります。設計者ならではの役割として、関係者に建築を通して可能性を示し、安心感や期待をもてるようにすることがあると思います。施設設計のためというだけでなく、それを実践する場が東畑建築事務所流のワークショップなのだと思いました。

地域ごとに異なる姿

あとの2校についてですが、公共施設のマネジメントとして全体の数を減らそうという時代の流れの中、地域に必要な機能はきちんと確保しておく必要があります。公共サービス維持のために必要となる施設のかたちは地域ごとに異なります。それをどう見つけていこうかとすると、それは設計者が一方的に決定するものではなく、地域の人たちとのやりとりが不可欠です。それを見事に実践されているということが、2つの計画から良く伝わってきました。

自主的な学びを促進

笹村　それでは最後に私から新たな人材育成を目指す施設として、ラーニング・コモンズを備えた大学施設である同志社大学良心館と武庫川女子大学学校教育館を紹介いたします。名称としては同じラーニング・コモンズですがアプローチは異なります。同志社大学の方がどちらかといえばソフトの面、情報発信に重点を置いて平面的で広大であるのに対し武庫川女子大学は逆にハードの面、与えられた規模の範囲で立体的にラーニング・コモンズの機能を組み込んでいます。学生たちの自主的な学びを促し、学びの姿を積極的に見せるというラーニング・コモンズについては最近学校関係者の関心も高く、実際に高校などでも必要性について話題に上ると聞いております。大学に限らず、高校や中学でも、こうしたラーニング・コモンズ的な空間を展開させていきたいと考えているところです。

長澤　同志社大学のラーニング・コモンズはソフトから発想がスタートしているという点において非常にユニークな施設だと思います。自ら学ぶというだけでなく、アイデアを出しあい互いに刺激し合いながら学びを深め、共に学ぼうという発想があります。一方で図書館の進化形といいますか、図書館機能の延長線上に位置づけたラーニング・コモンズもあります。武庫川女子大学の場合はどうなのでしょう？

笹村　アーカイブとよばれる一番上の階に書籍類を置いて、それをどのフロアでも閲覧・活用・発表できるようにしています。どちらかといえば図書館型ではなく、同志社大学のような情報発信型に近いと思います。

長澤　そうですか。図書館と同じ建物内にあるということが学生にどう生かされるか、また逆に図書館自体のさらなる活性化にラーニング・コモンズがどんな可能性を持つか興味があります。先行して実績を重ねている東畑建築事務所に期待したいですね。

草津市立老上第二小学校

子供の成長に対応

長澤　お話を聞いていて、どれも学校建築の課題に積極的にチャレンジし、実践していると実感しました。ビビッドな情報をよく仕入れ、デザインやコンセプトの検討を重ねてオリジナルの空間を実現しているという印象です。そこで学んだ子供たちや関わった地域の人たちが誇りに思え、自慢できる学校になると確信しました。学校建築を考えるうえで東畑建築事務所の作品や設計態度から学べることが非常に多くあると改めて感じました。教育施設・学校建築の課題に応え、外部からも高く評価されるものをつくってきた証左であると思います。管理運営の仕方や仕組みについても設置者側と議論をしながらつくり上げようとしており、完成後にどのように展開していくかも楽しみです。これからも影響力を大いに発揮してほしいという期待を込めて、ぜひ取り組んでいただきたい課題を最後に。

武庫川女子大学　学校教育館

一つは教室のあり方についてです。小学校ですと1年から6年まで体格も精神的にも大きく発育段階が異なります。そうした子供たちに画一的な教室で良いのかということです。学年の違いに応じた教室まわりの作り込み方について、私たちの考えはこうだという提案をぜひ見たい。小中一貫校ではなおさらですね。

もう一つが木材の活用です。RC造の焼き直しから一歩踏み込んで、地域材や地域の木造技術を生かすことに挑戦してほしい。長所短所合わせて、木の特性を十分踏まえた設計により、新鮮な空間が生み出せるのではないか。総合的な技術力を持つ設計組織ならではの提案が期待されます。

やりとりしながら答えを

新しい学びのかたち

笹村　小中一貫校についてですが、小学校1年生から中学校3年生までの年齢差の大きな子供たちが果たしてひとつの学校において共存できるのかという課題もあります。小中一貫校のあるべき姿について、先生はどうお考えですか。

長澤　一言では言えませんが、学年段階の区切りを設定し、各段階に応じた教育活動が自由に展開でき、また成長が実感できる空間づくり、異年齢交流や地域との交流ができる空間の用意、教職員の協働性を高める管理諸室などがあげられます。その姿は学校や地域ごとに異なるでしょう。私は「べき」という言葉はなるべく使わないようにしています。「べき」というと、条件を超えて決めつけるニュアンスがあり、設計にはなじまないので……。東畑建築事務所の、やりとりの中で答えを見つけ出していくことが大切だと思います。トランプゲームに例えれば、いろいろなカードを持っていて、その場で一番いい札をどう切るかが大切です。ただしトランプと違って、適当な札がなければ札を作って使う。それが設計の面白さではないかと思います。これからも新しい学びのかたちを発信し続けていただきたいと、大いに期待しています。

同志社大学　良心館

笹村　弊社は幼稚園から大学まで様々な教育施設を手がけております。そこで「やすらぎのある、良質な環境づくり」を目指し、新しい学びのかたちを発信し続けていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

共に育つ場をつくる

豊田市立浄水北小学校

本校は人口急増による分離新設校で、豊田市初の試みとして「地域共働型学校づくり」の主旨のもと計画が進められた。新しい学校づくりを通じ地域、学校、家庭がつながり、お互いに助け合い育ちあう、生涯学習を通じた「学びのコミュニティ」の創造が最終目標である。このプロジェクトは、地域の主体性をいかに引き出すかが重要となった。地域としても、学校としても、負担に感じてしまっては成り立たない。お互いがメリットを共有できるWIN−WINの関係を目指し、学校づくりがこれからも進む。

①愛知県豊田市②豊田市③RC一部S造3階建て延べ9，648平方㍍④2014年⑤設計　豊田市都市整備部住宅建築課、東畑建築事務所

大垣市立北幼保園

保育室は園庭を内包しながらのびやかな曲線で結ばれ、保育室と保育室のすきまの空間に吹抜を設け、トップライトから光が降り注ぐプレイコーナーとして活発な園児の交流の場となることを目指した。2階の保育室からは、園庭につながる芝生のマウンドを通って園庭にアクセスでき、回遊性をさらに高めている。太陽光発電、照明のオールLED化、井水を使った中水利用と屋根散水など環境配慮対策も積極的に行っている。

①岐阜県大垣市②大垣市③S一部RC造2階建て延べ3，571平方㍍④2014年

大口町立大口南小学校

新校舎は学校の中心に充実したメディアセンターを整備し、子どもたちが図書を通して知性や人とのふれあいを感じられる学校を目指した。既設校舎の南側に新校舎を建設することで、子どもたちも校舎が徐々にできあがっていく姿を目の当たりにすることを可能にした。学校建設中、定期的に「学校のつくり方としくみ」という授業を行い、学校建設に多くの人が携わっていることや設計意図を子どもたちに伝え、子どもたちにも共感できる学校づくりを進めた。

①愛知県丹羽郡大口町②大口町③RC一部S・SRC造地下1階地上2階建て延べ8，176平方㍍④2012年

新城市立黄柳川小学校

2校の統合校として、長年地域から切望された木造2階建て校舎、全校約70名の小規模校である。わずか900平方㍍足らずの狭い敷地にコンパクトに建てることが課題となった。形態はまちの豊かな自然環境、四季折々の美しい風景になじむ簡素でシンプルな表現を心掛けた。周辺の山並みや家並みに合わせた切妻屋根、地域材で設えた下見張りの木壁は、地区の昔からの風景をかたちづくる構成要素となる。また地域と学校の交流の場、円形多目的ホールのとんがり屋根は、地域のシンボルにもなっている。

①愛知県新城市②新城市③W一部RC造2階建て延べ3，125平方㍍④2013年

神河町立神河中学校

関西でも有数の高原地帯と数多くの清流をもつ地域、神河町においてイメージした原風景は、豊かな山並みの緑に融合する自然に包まれた地域みんなの『大きな家』であった。統合により町で唯一の中学校となる校舎は、日本の伝統的な集落にみられる、優しさと暖かい情感あふれる空間づくりを目指した。開放的なスクールストリートとクラスター配置の普通教室が学びと交流を意識した、生活のある学習空間の新しいスタイルとなる。変化に富んだ屋外空間は生徒がのびのびと過ごすことができ、活動性・積極性を高めることを期待している。

①兵庫県神崎郡神河町②神河町③RC造3階建て延べ6，608平方㍍④2011年

山陽小野田市立厚陽小中学校

旧小学校の一部校舎を再生改修しながら増築し、小学校と中学校を同じ敷地内に建てる施設一体型による「小中連携」と「地域連携」の建て替えである。施設の共用化と高機能化が両立する施設構成を目指し、図書室・武道場を中心に活動できる場をつくり、児童の昇降口は南側にまとめて交流を図った。また職員室・事務室も1カ所にまとめ、教職員の協働や施設整備の共同利用におけるスケールメリットを活かせるように配慮した。

①山口県山陽小野田市②山陽小野田市③RC造2階建て延べ3，244平方㍍④2012年

人が出会い

甲南女子中学校・高等学校

この学校には2つの大きな特長がある。ひとつは恵まれた立地環境。神戸・六甲の豊かな自然の恵みに抱かれた標高75㍍の敷地からは大阪平野から瀬戸内までパノラマで一望でき、さながら緑に抱かれた展望台にいるよう。ふたつ目は積み重ねてきた歴史。既存校舎群は庭から茶室に至るまですべて村野藤吾氏の作品で、40年以上経た今もなお独特の風合いを醸しながら皆に愛されている。新校舎の計画にあたってはこれら2つの特長を最大限に活かし、甲南女子ならではの校舎づくりを目指した。

①神戸市東灘区②甲南女子学園③RC一部SRC・S造4階建て延べ1万0,317平方㍍④2012年⑤設計監理　双星設計・東畑建築事務所共同企業体

関西大学北陽高等学校・中学校　総合体育館

キャンパスリニューアルの一環として体育館新設とグラウンドの全面人工芝化を行った。敷地は東海道新幹線と私鉄に隣接し、1日2万人の人目に触れる。この立地条件を最大限活かし「キャンパスイメージの一新」という明確なメッセージを内外に発信することが重要であると考えた。外観は密集市街地の種々雑多な様相とのコントラストを図り、無駄を削いだミニマルなデザインとした。またフィールドの緑とトラックの青に一際映えるよう、色彩はモノトーンで統一した。

①大阪市東淀川区②関西大学③S造4階建て延べ7,935平方㍍④2014年

武庫川女子大学　学校教育館

地域社会と共に教育・保育の「知」をはぐくみ、次代の教育を国内外的にリードしていく「人と情報のネットワーク拠点」が望まれた新館である。教育・保育に携わる様々な人に開かれた交流拠点として、開放的な外観構成とした。大学のブランドとも言える重厚感あるタイルをリブ壁とし、透明感あるファサードをリブ間に配している。国道沿いからは女子大の華やかさが徐々に垣間見え、品格と親近感を感じさせる。学生の対話・交流による自発的な学習の場として「コミュニティ・コモンズ」を、コの字型プラン中央に設けている。授業のあいまにヨリミチしやすく、人の目に付く場所とすることで、見る・見られるの関係性を創出し、より自発的行動を促す仕掛けとなっている。

①兵庫県西宮市②武庫川学院③S造7階建て延べ9,483平方㍍④2014年

同志社大学　良心館

「良心館」は地下1階に福利厚生施設を集積させ、2階から3階にわたって学生の自立的自発的学習活動を支援する設備として日本最大級のラーニング・コモンズ（2550平方㍍）を設けている。地階から4階まで大中小講義室が配置され、既存施設とあわせゼミナールを機軸に据えた専門教育を行う文系学部の教育拠点としてふさわしい環境を整えた。外壁には本レンガ中空積を採用、同志社の特徴でもある組石造の風情を再現。同志社の重要文化財建物との調和を図るデザインを継承し景観保全に配慮している。

①京都市上京区②同志社③SRC一部S造地下2階地上5階建て延べ4万0,446平方㍍④2013年⑤設計監理　同志社大学今出川キャンパス整備設計共同企業体（東畑建築事務所・類設計室）

大阪青山大学　看護学科棟

1967年の開学以来箕面キャンパスの整備としては6棟目に当たるプロジェクトである。市条例の改正により建物高さが10㍍に制限されるなか、キャンパス中央部のグラウンドを建設地とし、既存施設の最大活用を図り、新学科実習室を中心とした新棟建設を行った。計画にあたっては豊かな箕面の自然を背景にキャンパス全体の景観構成に配慮して既存施設との調和を図り、3棟から構成される新学科の効率的運用に配慮した動線計画とした。

①大阪府箕面市②大阪青山大学③RC造3階建て延べ2,376平方㍍④2015年

多摩大学25周年記念　T－Studio

創立25周年を迎える多摩大学記念事業の一環として、教育のさらなる充実と社会に開かれた次代の大学を目指し、多摩という地域性（ローカリティー）に深く根を下ろしながら、グローバルな視界を拓く「多摩グローカリティー（ローカリティー×グローバリティー）」を実践する受け皿としての場「T－Studio」をキャンパスの中心に計画した。1階は学生や地域住民、有識者が日常的に交流できるフラットな場とし、2階「CREATIVE COMMONS」ではより高度な活動を実践し発信する公共性の高いアカデミックな場を実現した。

①東京都多摩市②田村学園③S造2階建て延べ527平方㍍④2014年

①所在地②発注者③規模④竣工年⑤備考

学びのニーズに応える

大阪市立大学　理系学舎

本プロジェクトは次世代を担う先端研究を最適な環境で行えるよう、老朽化していた大阪市立大学理系学舎の再整備計画である。プロジェクトは大きく2つのエリアで構成している。北エリアは既存施設の解体撤去後新棟を建設、南エリアは既存施設を活かした耐震改修・機能改修を行っている。昭和30―40年代に建設された既存施設は水平庇を強調した建築であり、新棟はタイル・コンクリート・ガラスの素材を活かして柱や水平庇を強調し、調和を図りながら新たな表情を創りだしている。新旧織りなす建築群は創立135年を迎える大阪市立大学の伝統を紡ぎ、キャンパスに豊かな表情を与えている。

①大阪市住吉区②大阪市立大学学舎等整備センター③ＳＲＣ一部ＲＣ・Ｓ造地下１階地上７階建て延べ１万1,978平方㍍④2015年

東北大学　加齢医学研究所スマート・エイジング国際共同研究センター

年月を積み重ねても建築物が完全にメンテナンスフリーであり続ければ素晴らしいことだが、日本の風土では困難である。そこで無理に抵抗するのではなく経年変化に賢く対処することで積み重ねた年月が「生きる力」となるのではと考えた。アイストップとなる建築物の南西ファサードを植物・研究者・緑化庇を内包する白い帯で構成しファサードが生物の成長とともに変化していくことを意図した。１・３・５階に樹木を配置し各階南側に緑化庇、セミナールームやホールなどの交流エリアを集約した。

①仙台市青葉区②東北大学③ＲＣ造６階建て延べ3,057平方㍍④2011年

大阪大学（吹田）テクノアライランス棟

『開かれた交流空間の創出』『高品質・高機能な研究・実験施設』『キャンパス景観に配慮した外観』をコンセプトに、キャンパスの顔となる施設づくりが要求された。研究内容の変化に対応する柔軟性をもったラボスペースを設け、入居者エリアの明確なゾーニングによる確実なセキュリティ等、高機能な研究・実験施設を実現している。低層部に設けたコミュニケーションスペースは展示やイベント等の活動を通じ、学内外にわたる学生や研究者の交流を誘発し産学連携活動を象徴する空間となっている。

①大阪府吹田市②大阪大学③Ｓ造９階建て延べ１万2,329平方㍍④2011年⑤設計　大阪大学キャンパスデザイン室＋施設部、東畑建築事務所

京都大学宇治地区　先端イノベーション拠点施設

次世代を担う先端研究を常に最適な環境のもとで行えるよう、実験機器の変更対応に配慮した計画になっている。外部にテクニカルバルコニー、研究室床にフリーアクセスフロア、天井にはケーブルラックとダクトスペースを設けて明確かつ最適な設備供給ルートとフレキシビリティを確保している。共用ゾーンは自然光溢れる明るく快適な場づくりを目指し、外観は先端研究施設として端正なファサードで設備更新時に配管の増改修が目立たないよう充分な設備スペースを確保、大庇や目隠しルーバーを設けて外観を損ねないよう計画している。

①京都府宇治市②京都大学③ＲＣ造４階建て延べ3,859平方㍍④2011年

東京大学（駒場Ⅱ）総合研究実験棟

東京大学駒場Ⅱキャンパス内に建つ先端科学技術研究センターの研究所である。本キャンパスは東京大学の中でも研究に特化したキャンパスで、中でも同センターは分野横断的な研究を実践しており、学内の研究者にとどまらない産学連携の拠点にもなっている。このような研究所にふさわしい環境・機能を目指し、統一感のあるキャンパス全体像の形成、１階に配置され利便性の高い集会ホール、銀杏の緑に包まれリラックスできる研究室、ユニット毎に改装が可能なインフラレイアウトの実験室等を計画することで、最新の研究活動を支えている。

①東京都目黒区②東京大学③ＲＣ一部Ｓ造７階建て延べ7,123平方㍍④2011年

岡山大学（津島）国際交流会館

国際交流に関する事業に供するとともに、外国人研究者及び外国人留学生に居住の場を提供し、学術・教育及び文化の国際交流の促進に資することを目的としている。外観は宿泊棟（南棟）と交流棟の高さを合わせることでバランスを整え、庇のデザインとアースカラーを基調とした色調により、背景となる半田山の山並みとの調和を図っている。

①岡山市北区②岡山大学③Ｓ造３階建て延べ2,232平方㍍④2011年

進行中のプロジェクト

福岡雙葉小学校

福岡雙葉小学校は、創立当初からカトリックの教えにもとづいて女子教育を貫くミッションスクールである。地形と建築とを一体的に捉え、この場所になじみながらも新しい魅力を最大限生み出す「学び舎」を計画した。ファサードは「祈りの部屋」の形態を前面に配し、雙葉学園の理念である「キリスト教精神」を表現出来る意匠とした。また昨今の環境問題であるPM2・5の対応をはじめ、校舎棟のデシカント空調、体育館や多目的ホールの床下空調によるさわやかな空気環境の提供等、子供達が快適で安心して学べる設備システムを採用している。

①福岡市中央区②福岡雙葉学園③RC造地下2階地上4階建て延べ7,997㎡④2016年（予定）

草津市立老上第二小学校

地域住民や保護者、各種関係団体等との調整を図り、地域と連携した学校づくりを目指した。広がりのある田園風景や集落景観を継承した2階建ての分散配置とし、「ふれあい広場」を中心に校舎と体育館、学童・市民センターが取り囲むように配置されている。校舎は一部木造化も図られ、開放的なメディアセンターは子どもたちがいつでも自由に利用できる交流エリアにもなっている。広場に面して設けた音楽室は地域開放も視野に入れた多目的ホールとして新しい学校のシンボルとなり「まちの風景」を形成していく。

①滋賀県草津市②草津市③S＋W造2階建て延べ9,342平方㍍④2016年（予定）

尼崎市立園和小学校

環境整備の視点から道路際の既存樹木を保存しながら東側の商店街に対し、大きな広場を確保、北側にグラウンドを整備することで道路側からの開放感と視界の広がりを創出した。外観は親しみのある表情豊かなデザインによりヒューマンで安定感のあるモダニズム建築を目指している。正面性と規律性のあるデザインを基調とし、ベージュの壁に横ラインの小庇、連続する窓、頂部のイブシ調の金属屋根がスカイラインを引き締める。学校らしいモダンな新風景を創りだし、地域の子供たちに愛される学校として成長することを願っている。

①兵庫県尼崎市②尼崎市③RC造4階建て延べ1万1,957平方㍍④2015年（予定）

豊中市立西丘小学校

千里中央駅に近い交通至便かつ緑豊かな立地を生かした学校である。図書館のアトリウムを中心に子どもたちが回遊できる特別教室棟からクラスター状に普通教室棟を張り出した形態とし、現在も盛んな地域との交流を継承する地域連携棟を道路側に配置することで地域の方も利用しやすい学校としている。アプローチの曲面ガラススクリーンで来校者を迎え入れる優しいデザインとし、各階の大庇による水平線を強調したシャープなデザインと合わせ、千里ニュータウンの新しい風景として地域に長く愛される建物を目指している。

①大阪府豊中市②豊中市③RC造4階建て延べ8,400平方㍍④2017年（予定）

松山市立東雲小学校

①愛媛県松山市②松山市③RC一部S造4階建て延べ9,873平方㍍④2016年（予定）

東雲小学校は、松山市の中心部の文教地区に位置している。現地建替えに際し隣接する東中学校との連携、市の教育センターとの合築が計画され、松山市の学校教育の特徴でもある、小小、小中連携の中核となる施設として意図されている。加えて、色々な機能を小学校、中学校、さらに教育センターとの間で兼用し、合理化も図っている。学年毎にまとまったクラスタープランとパソコン室と図書室を一体化したメディアセンターが大きな特徴となっている。学校からも望める松山城を意識して、白と黒を基調とした清々しいデザインとしている。

同志社女子大学新心館

本事業はキャンパスに分散していた食物栄養学科の研究実験施設を集約するものである。既存キャンパスとの景観調和を図り、外壁はレンガやタイル・水平ボーダーを基調とし、屋根は金属葺きの勾配屋根で構成する。将来に渡り外観を損ねないよう、設備供給ルートは外部に設けず内部に充分なシャフトを設け、設備の増改修に対応する計画としている。実験室は多様な実験実習活動を想定、すべてに対応できる最適な基本モデル化を図り、実験内容の変更に対応できる計画としている。敷地形状により建物配置は南北軸となるため、東西面からの採光対策として窓際にレンガの透かし積みを設け、研究実験室への直射光の軽減を図っている。エントランス空間は直階段や吹抜を設け、伸びやかで明るいインテリアとしている。

①京都市上京区②同志社③SRC造地下1階地上3階建て延べ5,584平方㍍④2015年（予定）

同志社女子中学校・高等学校新校舎

生徒たちがともに学び、互いの個性を尊重しつつ「ハンサムレディ」として成長できる学び舎を目指している。校舎を南北に貫くアトリウムを中心に東側を中学専用エリア、高校校舎や体育館に近い西側・南側を中高共用エリアとして、明確なゾーニングを図った。光と風を感じるアトリウムを始め「ゆとりと潤い」のある空間づくりを目指し、生徒ラウンジ、メディアコーナー等の生徒が自ら考えて行動するような仕掛けづくりと交流スペースを各所に配することで、生徒たちの主体的な学習・交流を促している。

①京都市上京区②同志社③RC造地下1階地上4階建て延べ1万0,904平方㍍④2016年（予定）

①所在地②発注者③規模④竣工年⑤備考

まちに新たな にぎわいとうるおい

みなとみらいグランドセントラルタワ

日本中央競馬会　函館競馬場

さかい利晶の杜

真庭市役所　本庁舎

イオンモ　ル京都桂川

エクセディ新本館ビル

南長野運動公園総合球技場

Arukas アルカスホ　ル

なにわ生野病院・なにわ老人保健施設ラガ　ル

刈谷市総合文化センタ

ＮＨＫ新京都放送会館

上京区総合庁舎

上村工業株式会社　新中央研究所

株式会社 東畑建築事務所　http://www.tohata.co.jp

本社・大阪事務所
〒541　0043　大阪市中央区高麗橋２　６　１０
東京事務所
〒100　0014　東京都千代田区永田町２　４　３
名古屋事務所
〒453　0801　名古屋市中村区太閤３　１　１８
九州事務所
〒812　0018　福岡市博多区住吉３　１　１
支所
東北／横浜／広島／北九州／山口
グル　プ会社
上海東畑建築設計諮詢有限公司

写真提供一覧
エスエス東京、エスエス大阪、エスエス名古屋、スタジオ・スクエア（堺谷一志）、時空アート、スタディオ・クリオ（上諸尚美）、内田洋行、プライズ、東北大学施設部、ＰＨＯＴＯ　ＷＯＲＫＳ、近代建築社（清水向山）、冨田英次、竹中工務店、竹中工務店ＪＶ、野口兼史、フォトスタジオ嵯峨（順不動）